

# 第11回 メディアに関する全国世論調査（2018年） 調査結果の概要

新聞通信事業に関する調査研究、資料収集、講演会の開催などを行っている公益財団法人新聞通信調査会（理事長 西沢豊）は、2018年8月17日から9月4日に「第11回メディアに関する全国世論調査（2018年）」を実施しました。

調査は、全国の18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い、62.7%、3,135人から回答を得ました。特定のメディアのユーザーに偏らない、国民全体を代表するサンプル設計（住民基本台帳を用いた層化二段無作為抽出）が特徴です。調査結果の概要は以下の通りです。

## 主な調査結果

### 民放テレビ、NHK テレビ、新聞の信頼度得点は上昇、 インターネット、ラジオは低下

・各メディアの情報をどの程度信頼しているかを、全面的に信頼している場合は100点、全く信頼をしていない場合は0点、普通の場合は50点として点数をつけてもらったところ、「新聞」は69.6点となり、前回調査より0.9点上昇した。「NHK テレビ」は70.8点で0.8点の上昇（前回調査70.0点）、「民放テレビ」が62.9点で3.7点の上昇（前回調査59.2点）、「ラジオ」が57.2点で1.0点の低下（前回調査58.2点）、「インターネット」が49.4点で2.0点の低下（前回調査51.4点）であった。（資料1ページ、図表1）

・この1年間で新聞への信頼感が高くなったと答えた人に尋ねた理由では「公正・中立な立場で報道しているから」26.0%（昨年度比5.7ポイント増）がトップ、一方、信頼感が低くなったと答えた人に尋ねた理由では「特定の勢力に偏った報道をしているから」46.7%（昨年度比5.3ポイント増）がトップ。（資料1ページ、図表2）

・本調査では第10回まで新聞を中心とした意識調査を行ってきたが、第11回を迎えるに当たり、6つのメディアについて並列して比較するということを主眼においた意識調査を行うために、質問を再構成した。それが結果に少なからず影響したと考えられる。

## ニュース接触は、民放、NHK、新聞、ネットの順

・ニュースとの接触状況については、接触率が高い順に、民放テレビのニュースが91.8%、NHK テレビのニュースが79.8%、新聞が70.1%、インターネットのニュースが66.5%、ラジオのニュースが33.7%となった。そのうち、毎日の接触率は、民放テレビのニュースが55.8%、新聞が47.0%、NHK テレビのニュースが42.0%、インターネットのニュースが39.4%、ラジオのニュースが9.8%となった。(資料2ページ、図表3)

・ニュースとの接触時間については、平均接触時間が長い順に、民放テレビのニュースが36.2分、NHK テレビのニュースが29.4分、新聞が24.8分、インターネットのニュースが23.4分、ラジオのニュースが22.4分となった。民放テレビのニュースの接触時間が他のメディアより長い理由としては、厳密にはニュース番組ではないもの(総合情報番組等)も含まれるのではないかと思われる。(資料2ページ、図表4)

・ニュースと接触する場所、時間帯を質問したところ、新聞は「自宅(午前中)」が48.1%で最も高く、民放テレビのニュースとNHK テレビのニュースは「自宅(夕方以降)」(民放56.6%、NHK48.6%)が最も高かった。インターネットのニュースは「自宅(夕方以降)」が30.0%で最も高いが、「職場・学校」(21.0%)、「移動中(電車・バスなど)」(19.6%)も高かった(複数回答)。(資料3ページ、図表5)

## 見聞きするメディアは全分野で民放テレビが1位

・8つの分野について、どのメディアで読んだり見たりするかを質問したところ、全ての分野で「民放テレビ」が最も高かった。2位には、政治、経済、社会、国際情勢、文化に関する事で「NHK テレビ」、スポーツ・芸能、生活・健康に関する事で「インターネット」、地域に関する事で「新聞」が挙げられた(複数回答)。(資料4ページ、図表6)

・各メディアの印象を尋ねたところ、「情報が信頼できる」「社会的影響力がある」ではNHK テレビが1位に、「情報が面白い・楽しい」「情報が分かりやすい」「情報が役に立つ」「情報源として欠かせない」「情報の量が多い」では民放テレビが1位に、「手軽に見聞きできる」ではインターネットが1位になった。新聞は、「情報が信頼できる」で2位に、「社会的影響力がある」「情報が分かりやすい」「情報が役に立つ」「情報の量が多い」で3位になった(複数回答)。(資料4ページ、図表7)

## 新聞の購読率は低下傾向が続く

・新聞の購読率は2008年度の88.6%から今回調査の69.4%へ低下傾向が続いている。全国紙が2008年度の55.1%から今回調査の35.7%へ19.4ポイントの低下であった。県紙・地方紙は2008年度27.6%から今回調査25.8%とわずかながら低下しているが、この11年間ほぼ横ばいであった。ブロック3紙は2008年度13.0%から今回調査9.2%へ3.8ポイントの低下であった。(資料5ページ、図表8)

・新聞をとる理由としては「新聞を読むのが習慣になっているから」が48.3%でトップ。新聞をとらない理由としては「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」が72.5%でトップ(複数回答)。(資料5ページ、図表9)

## 新聞全般の満足度、戸別配達の実績希望は低下するも、購読料は妥当と考える人が半数強

・新聞全般の満足度について時系列変化を見ると、「満足している」割合が低下、「どちらとも言えない」割合が上昇、「不満である」は横ばいとなった。依然、「満足している」割合が「どちらとも言えない」より高かった。「どちらとも言えない」とした人の割合は、新聞を読む頻度が低いほど高くなっており、新聞との接触が少ないことが、満足か否かを評価できない理由ではないかと考えられる。(資料6ページ、図表10)

・戸別配達の実績希望について時系列変化を見ると、2008年度の84.1%から今回調査の67.0%へ低下傾向が続いた。(資料6ページ、図表11)

・新聞の購読料評価について時系列変化を見ると、「妥当」と考える人の割合が2015年度以降、「高い」と考える人の割合を上回り、今回調査まで5割を超える結果となった。(資料6ページ、図表12)

・今後の新聞の接し方については、「紙の新聞を購読する」と答えた人が最も多く58.5%であった。一方、「図書館やインターネットなど無料で読める分で十分なので、新聞は購読しない」は20.4%、「無料でも新聞は読まない」は8.8%であった。(資料6ページ、図表13)

## 時事問題で読んだり見たりしたいのは民放テレビ

- ・政治・経済・社会に関する15の時事問題について、どのメディアで読んだり、見たりしたいかを質問した。「日本の財政、税制」「選挙制度改革」はNHKテレビが1位に、他の項目は全て民放テレビが1位になった(複数回答)。(資料7ページ、図表14)
- ・新聞は「年金・医療・介護」「雇用環境、ブラック企業」で2位になった。

## 憲法改正報道、情報入手、分かりやすい、ともに民放テレビ、NHKテレビ、新聞、インターネットの順

- ・憲法改正問題に関する情報をどのメディアから入手しているか質問したところ、「民放テレビ」を挙げた人が65.6%と最も多く、以下、「NHKテレビ」が59.4%、「新聞」が52.5%、「インターネット」が34.8%という結果になった(複数回答)。前回調査と比べると、民放テレビが7.3ポイント、NHKテレビが2.4ポイント上昇した。一方、新聞が1.7ポイント、インターネットが2.5ポイント低下した。(資料8ページ、図表15)
- ・憲法改正問題に関する情報で分かりやすいと思うメディアを挙げてもらったところ、「民放テレビ」が50.5%、「NHKテレビ」が45.8%、「新聞」が40.4%、「インターネット」が21.7%という結果になった(複数回答)。前回調査と比べると、民放テレビが2.8ポイント、NHKテレビが1.4ポイント上昇した。一方、新聞が3.3ポイント、インターネットが3.2ポイント低下した。(資料8ページ、図表15)
- ・憲法改正問題に、「関心がある」と答えた人が64.1%（「非常に関心がある」17.3%と「やや関心がある」46.8%の計）、「関心がない」と答えた人が35.5%（「全く関心がない」6.1%と「あまり関心がない」29.4%の計）となった。この質問を始めた2013年度以降、関心は最も低くなった。(資料9ページ、図表16)
- ・国会で憲法改正問題が議論されていく中で新聞に期待する報道を尋ねたところ、「政党の意見の違いがよく分かるような報道をしてほしい」が49.5%で最も多く、次いで、「現行の憲法について詳しく解説してほしい」(47.4%)となった(複数回答)。(資料9ページ、図表17)
- ・「憲法改正への賛否については、新聞社の立場を明確にしてほしい」が昨年度から2.1ポイント増加したが、上位4項目はいずれも割合が減少した。図表16で示したように、関心の低下と相関がある。

## その他の調査結果の主な内容

調査結果の詳細については、調査結果報告書をご覧ください。

### 《各メディアの印象・信頼度》

1. 各メディアの情報の信頼度は？
  - 1位「NHK テレビ」70.8点、2位「新聞」69.6点、3位「民放テレビ」62.9点
2. 各メディアにつけた信頼度得点に影響が大きかったのは？
  - 「情報源として欠かせない」「情報が分かりやすい」「社会的影響力がある」
3. 各メディアの信頼感の変化は？
  - この1年間で新聞の信頼感が「低くなった」が7.7%  
理由は「特定の勢力に偏った報道をしているから」47%がトップ
4. 各メディアの印象は？
  - 信頼の「NHK テレビ」「新聞」、面白く、分かりやすく、役立ち、欠かせず、情報量が多い「民放テレビ」、手軽な「インターネット」
5. ニュースの信頼性と対価についてどう思う？
  - 「代金を支払ってもよい」は26%、「無料で入手したい」は45%
6. 報道の自由についてどう思う？
  - 「報道の自由は常に保障されるべきだ」が82%
7. 世論調査は人々の意見を反映しているか？
  - 「反映している」24%、「反映していない」34%、「どちらとも言えない」41%

### 《時事問題とメディア》

8. 時事問題で読んだり見聞きしたいメディアは？
  - 15項目のうち、13項目は民放テレビが1位

### 《憲法改正問題に関する報道》

9. 憲法改正問題に関心がある？
  - 「関心がある」64%と2013年度調査以来最低
10. 憲法改正問題に関する情報を入手しているメディアは？
  - 「民放テレビ」66%、「NHK テレビ」59%、「新聞」53%
11. 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいメディアは？
  - 「民放テレビ」51%、「NHK テレビ」46%、「新聞」40%
12. 今後、新聞に期待する憲法改正問題報道は？
  - 新聞は「政党の意見の違い」「現行憲法の解説」についての報道を

### 《ニュースとメディア》

13. ニュースを読んだり見聞きしたりするのは週にどれくらい？
  - ニュース接触率「民放テレビ」「NHK テレビ」「新聞」「インターネット」の順
14. ニュースを読んだり見聞きしたりするのは1日にどれくらい？
  - 接触時間の長い順は「民放テレビ」「NHK テレビ」「新聞」「インターネット」

15. ニュースを読んだり見聞きしたりするのはいつ、どこで？  
●新聞は「自宅(午前中)」、民放テレビとNHK テレビは「自宅(夕方以降)」
16. 大きなニュースを入手するメディアは？  
●「民放テレビ」80%、「NHK テレビ」61%、「インターネット」55%、「新聞」49%
17. どのメディアで各分野の情報を得る？  
●全分野で民放テレビが1位、「地域に関すること」は新聞が2位

#### 《生活の中の新聞》

18. 新聞をどのように読んでいる？  
●「月ぎめでとっている紙の新聞」63%、「読まない」24%
19. 月ぎめ新聞の購読状況は？  
●69%が購読、購読率は減少傾向が続く、中でも全国紙の減少が顕著
20. 月ぎめで新聞をとる理由は？  
●「新聞を読むのが習慣になっているから」48%
21. 月ぎめで新聞をとらない理由は？  
●「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」73%
22. 通信社の役割を知っている？  
●「知っている」51%、「知らない」48%  
「役割を知っている」人の割合は2012年度以降、50%前後で推移
23. 見たり聞いたりしたことがある通信社は？  
●1位「共同通信社」(73%)、2位「ロイター通信」(70%)
24. 新聞の記事の満足度は？  
●ラ・テ欄、社会記事、地元記事など、身近な事柄についての記事の満足度が高い
25. 新聞全般の満足度は？  
●満足している人は48%、不満な人は8%。年々満足層は減少
26. 戸別配達をどう思う？  
●日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」67%。減少傾向が止まる
27. 新聞の購読料をどう思う？  
●「妥当」とする人が54%、「高い」とする人が43%
28. 今後、新聞とどう接する？  
●「紙の新聞を購読する」が59%、「購読しない・読まない」が29%

#### 《インターネットとニュース》

29. インターネットニュースを見る時に使用する機器は？  
●スマートフォン・携帯電話が86%、モバイルのみでの閲覧が60%
30. インターネットニュースを見る時、アクセスするのは？  
●ポータルサイトが85%、SNSは若い世代ほど多い
31. インターネットニュースを見る時に出所を気にするか？  
●「気にする」40%、「気にしない」60%、「気にしない」が昨年度57%より増加
32. インターネットニュースの有料サービスを利用している？  
●利用していないが93%、「有料の電子新聞や新聞記事」の利用が3%

## 調査の概要

●調査地域

全国

●調査対象

18歳以上男女個人（5,000人）

●サンプリング法

住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法

●回収サンプルの構成

回収数 3,135（62.7%）

●調査方法

専門調査員による訪問留置法

●実査時期

2018年8月17日から9月4日

●調査委託機関

一般社団法人 中央調査社

<性別>

総数	男性	女性
3,135	1,462	1,673
100.0%	46.6%	53.4%

<年代別>

18～ 19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
70	299	377	553	500	589	747
2.2%	9.5%	12.0%	17.6%	15.9%	18.8%	23.8%

## 第11回 メディアに関する全国世論調査（2018年）

2018年10月発行

発行 公益財団法人 新聞通信調査会

東京都千代田区内幸町2-2-1

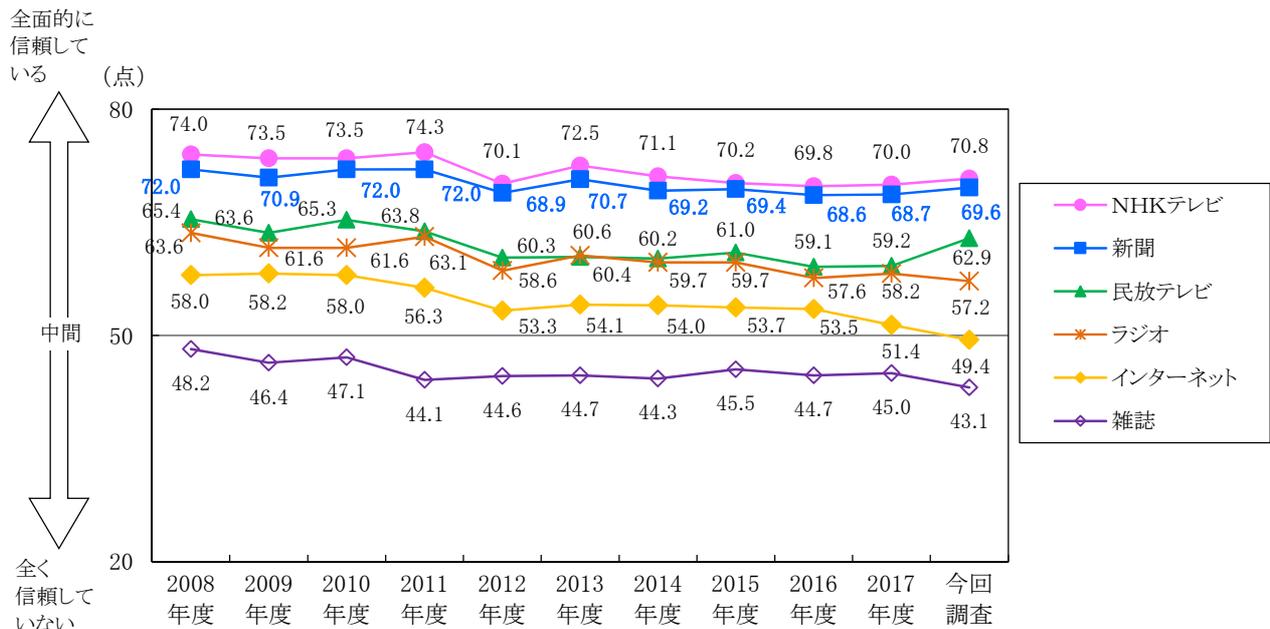
日本プレスセンタービル1階

電話 03-3593-1081

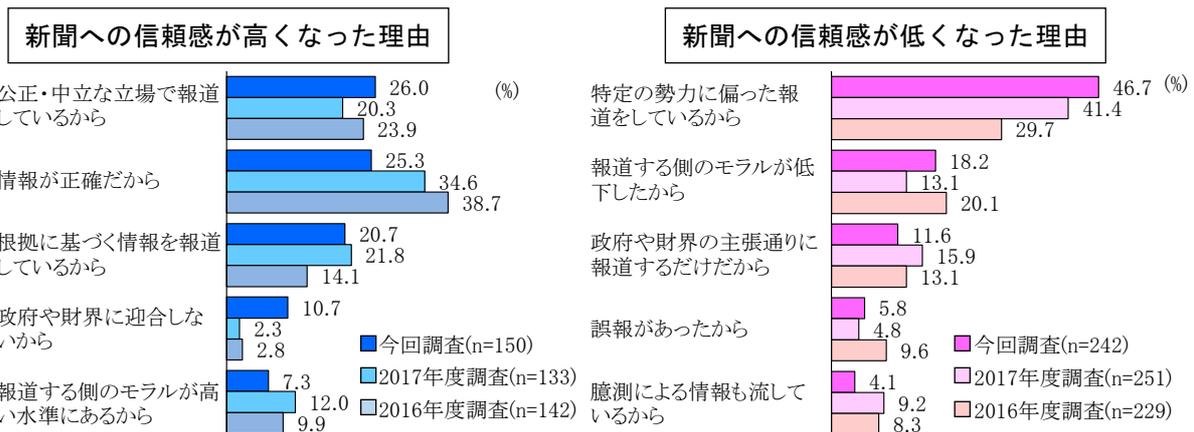
# 民放テレビ、NHK テレビ、新聞の信頼度得点は上昇、インターネット、ラジオは低下

- 各メディアの情報をどの程度信頼しているかを、全面的に信頼している場合は100点、全く信頼していない場合は0点、普通の場合は50点として点数をつけてもらったところ、「新聞」は69.6点となり、前回調査より0.9点上昇した。「NHK テレビ」は70.8点で0.8点の上昇（前回調査70.0点）、「民放テレビ」が62.9点で3.7点の上昇（前回調査59.2点）、「ラジオ」が57.2点で1.0点の低下（前回調査58.2点）、「インターネット」が49.4点で2.0点の低下（前回調査51.4点）であった。
- この1年間で新聞への信頼感が高くなったと答えた人に尋ねた理由では「公正・中立な立場で報道しているから」26.0%（昨年度比5.7ポイント増）がトップ、一方、信頼感が低くなったと答えた人に尋ねた理由では「特定の勢力に偏った報道をしているから」46.7%（昨年度比5.3ポイント増）がトップ。
- 本調査では第10回まで新聞を中心とした意識調査を行ってきたが、第11回を迎えるに当たり、6つのメディアについて並列して比較するという点を主眼においた意識調査を行うために、質問を再構成した。それが結果に少なからず影響したと考えられる。

図表1 各メディアの情報信頼度（時系列）



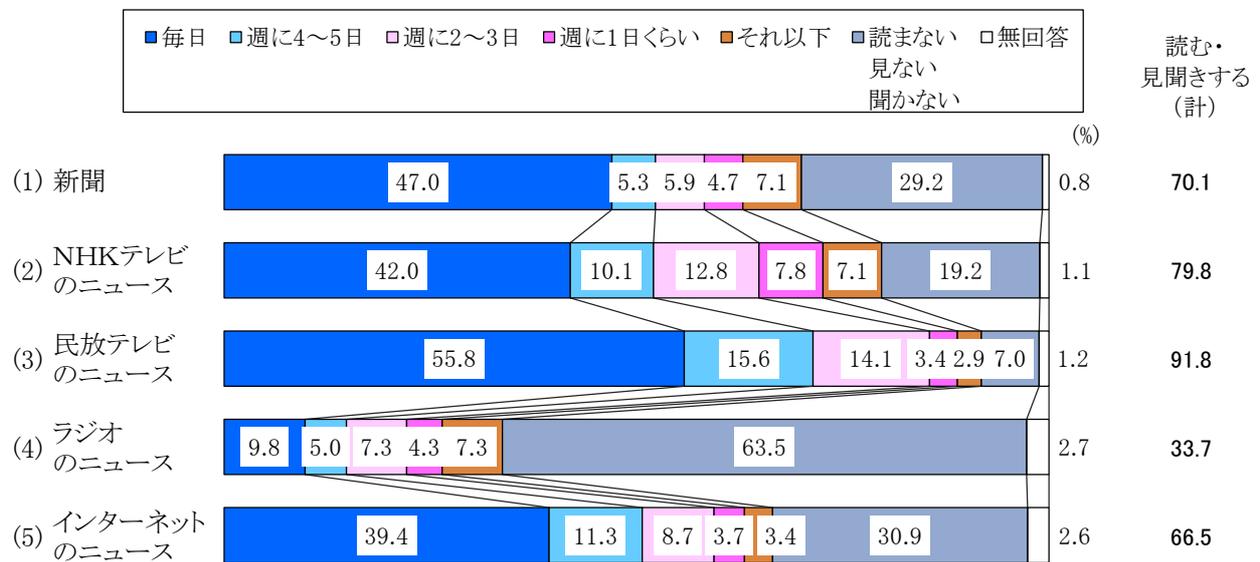
図表2 新聞の信頼感変化の理由



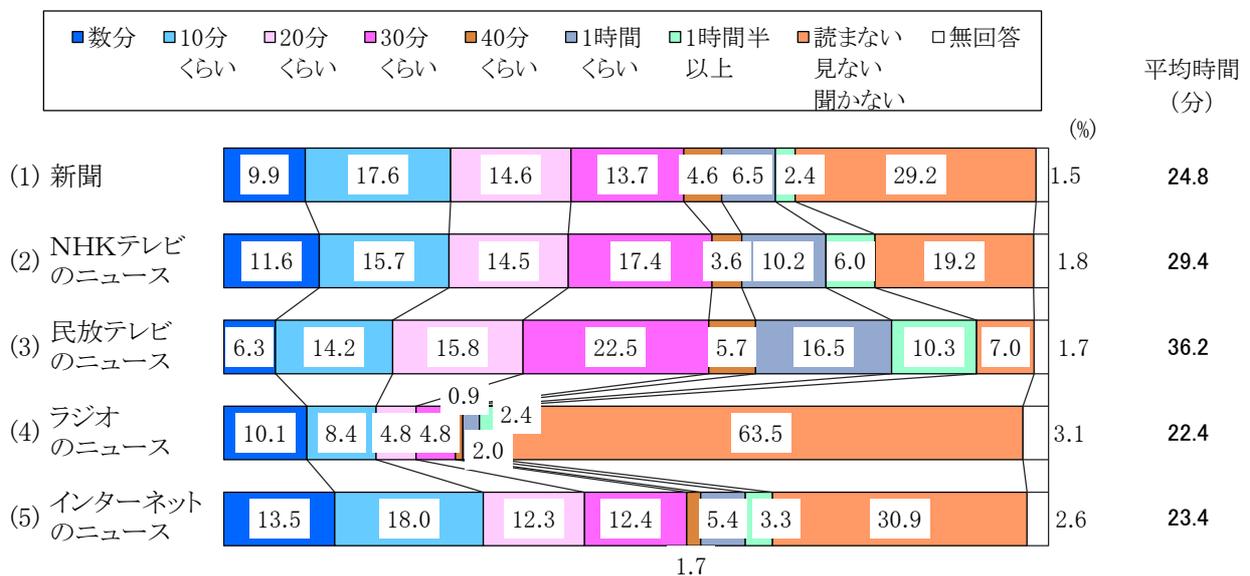
# ニュース接触は、民放、NHK、新聞、ネットの順

- ニュースとの接触状況については、接触率が高い順に、民放テレビのニュースが91.8%、NHK テレビのニュースが79.8%、新聞が70.1%、インターネットのニュースが66.5%、ラジオのニュースが33.7%となった。そのうち、毎日の接触率は、民放テレビのニュースが55.8%、新聞が47.0%、NHK テレビのニュースが42.0%、インターネットのニュースが39.4%、ラジオのニュースが9.8%となった。
- ニュースとの接触時間については、平均接触時間が長い順に、民放テレビのニュースが36.2分、NHK テレビのニュースが29.4分、新聞が24.8分、インターネットのニュースが23.4分、ラジオのニュースが22.4分となった。民放テレビのニュースの接触時間が他のメディアより長い理由としては、厳密にはニュース番組ではないもの（総合情報番組等）も含まれるのではないかと思われる。

図表3 ニュースとの接触状況 (n=3,135 全員に)



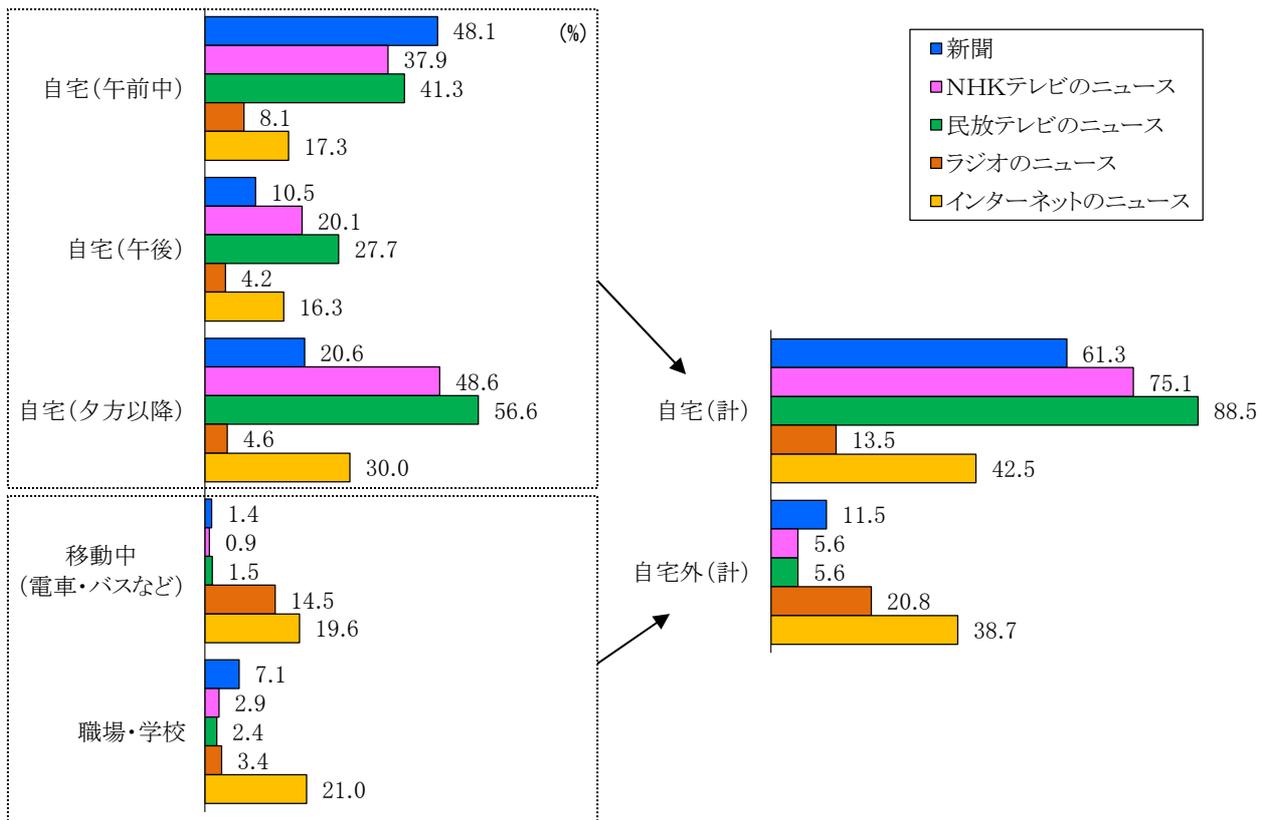
図表4 ニュースとの接触時間 (n=3,135 全員に)



## ニュースと接触する場所は、新聞は「自宅(午前中)」、民放テレビとNHKテレビは「自宅(夕方以降)」

- ・ ニュースと接触する場所、時間帯を質問したところ、新聞は「自宅(午前中)」が48.1%で最も高く、民放テレビのニュースとNHKテレビのニュースは「自宅(夕方以降)」(民放56.6%、NHK48.6%)が最も高かった。インターネットのニュースは「自宅(夕方以降)」が30.0%で最も高いが、「職場・学校」(21.0%)、「移動中(電車・バスなど)」(19.6%)も高かった(複数回答)。

図表5 ニュースと接触する場所(複数回答、n=3,135 全員に)



## 見聞きするメディアは全分野で民放テレビが1位

- ・ 8つの分野について、どのメディアで読んだり見たりするかを質問したところ、全ての分野で「民放テレビ」が最も高かった。2位には、政治、経済、社会、国際情勢、文化に関することで「NHKテレビ」、スポーツ・芸能、生活・健康に関することで「インターネット」、地域に関することで「新聞」が挙げられた（複数回答）。
- ・ 各メディアの印象を尋ねたところ、「情報が信頼できる」「社会的影響力がある」ではNHKテレビが1位に、「情報が面白い・楽しい」「情報が分かりやすい」「情報が役に立つ」「情報源として欠かせない」「情報の量が多い」では民放テレビが1位に、「手軽に見聞きできる」ではインターネットが1位になった（複数回答）。
- ・ 新聞は、「情報が信頼できる」で2位に、「社会的影響力がある」「情報が分かりやすい」「情報が役に立つ」「情報の量が多い」で3位になった。

図表6 読んだり見たりするメディア(複数回答、n=3,135 全員に)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	(%) 読まない 見ない 聞かない
政治に関すること	民放テレビ 63.7	NHKテレビ 52.8	新聞 45.4	インターネット 33.5	ラジオ 8.7	雑誌 3.3	4.7
経済に関すること	民放テレビ 61.8	NHKテレビ 48.5	新聞 44.4	インターネット 34.2	ラジオ 8.3	雑誌 3.9	8.2
社会に関すること	民放テレビ 71.5	NHKテレビ 53.0	新聞 47.9	インターネット 41.1	ラジオ 10.5	雑誌 4.1	3.2
国際情勢に関すること	民放テレビ 62.9	NHKテレビ 52.4	新聞 42.9	インターネット 35.3	ラジオ 8.2	雑誌 2.8	6.5
地域に関すること	民放テレビ 56.3	新聞 49.1	NHKテレビ 37.9	インターネット 32.0	ラジオ 9.5	雑誌 3.9	5.6
スポーツ・芸能に関すること	民放テレビ 73.5	インターネット 50.9	新聞 41.2	NHKテレビ 40.0	ラジオ 9.7	雑誌 8.6	3.9
文化に関すること	民放テレビ 59.6	NHKテレビ 43.5	新聞 40.6	インターネット 38.8	雑誌 8.8	ラジオ 7.8	7.0
生活・健康に関すること	民放テレビ 67.5	インターネット 46.9	NHKテレビ 43.4	新聞 38.5	雑誌 16.6	ラジオ 8.1	3.8

図表7 メディアの印象(複数回答、n=3,135 全員に)

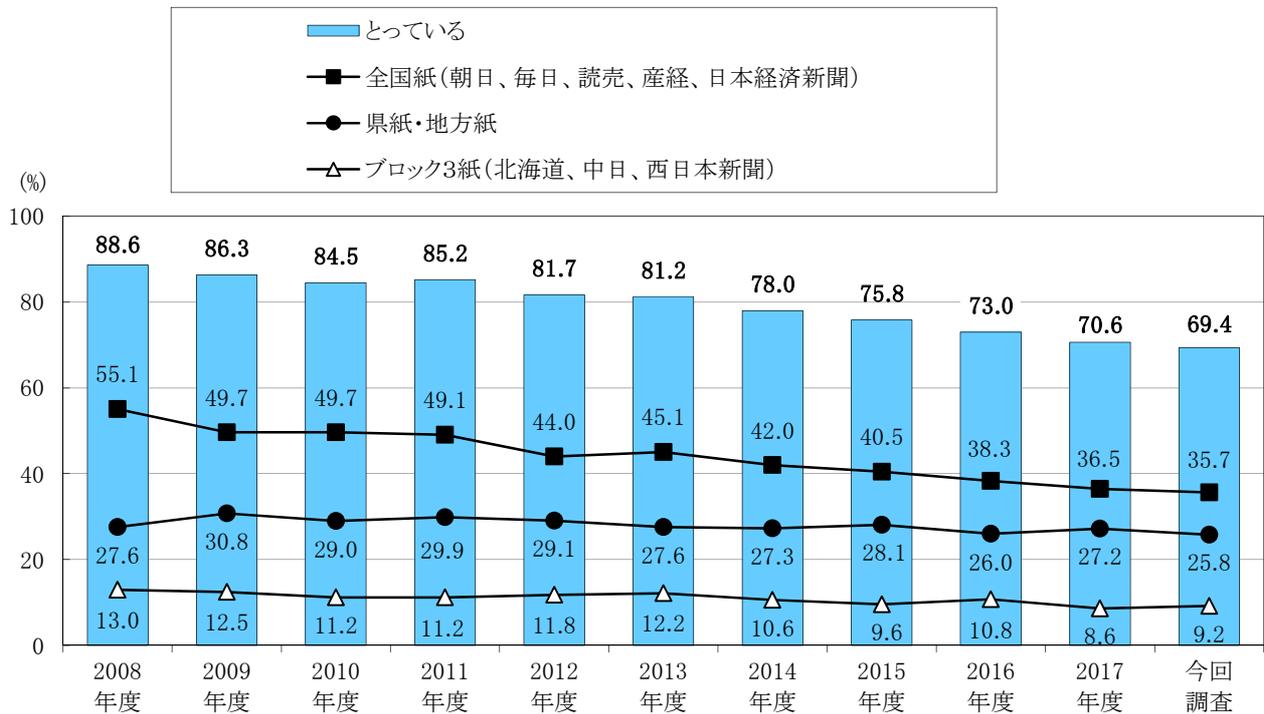
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	(%)
情報が信頼できる	NHKテレビ 62.1 (57.7)	新聞 56.6 (57.3)	民放テレビ 39.6 (20.4)	インターネット 14.1 (13.1)	ラジオ 10.5 (10.3)	雑誌 2.4 (1.9)	
社会的影響力がある	NHKテレビ 57.4 (55.3)	民放テレビ 54.4 (48.4)	新聞 48.6 (48.7)	インターネット 36.7 (41.9)	ラジオ 6.0 (7.5)	雑誌 4.4 (9.1)	
情報が面白い・楽しい	民放テレビ 65.7 (61.2)	インターネット 44.1 (42.4)	NHKテレビ 22.2 (17.9)	新聞 20.2 (15.3)	雑誌 12.7 (18.9)	ラジオ 9.0 (11.6)	
情報が分かりやすい	民放テレビ 58.9 (43.7)	NHKテレビ 47.0 (45.8)	新聞 37.4 (37.1)	インターネット 30.7 (29.7)	ラジオ 7.2 (7.6)	雑誌 3.7 (5.0)	
情報が役に立つ	民放テレビ 52.0 (37.5)	NHKテレビ 45.6 (42.4)	新聞 42.3 (47.8)	インターネット 40.9 (41.4)	ラジオ 8.7 (10.8)	雑誌 7.9 (10.5)	
情報源として欠かせない	民放テレビ 49.8 (38.7)	インターネット 45.2 (47.1)	NHKテレビ 43.6 (41.8)	新聞 42.3 (44.7)	ラジオ 8.9 (10.0)	雑誌 4.1 (5.6)	
情報の量が多い	民放テレビ 44.0 (31.5)	インターネット 42.2 (45.4)	新聞 36.3 (39.6)	NHKテレビ 31.5 (23.5)	雑誌 4.4 (5.6)	ラジオ 3.8 (3.6)	
手軽に見聞きできる	インターネット 55.3 (54.7)	民放テレビ 54.3 (49.2)	NHKテレビ 34.5 (32.9)	新聞 33.5 (36.3)	ラジオ 11.4 (15.0)	雑誌 6.2 (8.2)	

注：( )内は昨年度調査の数値

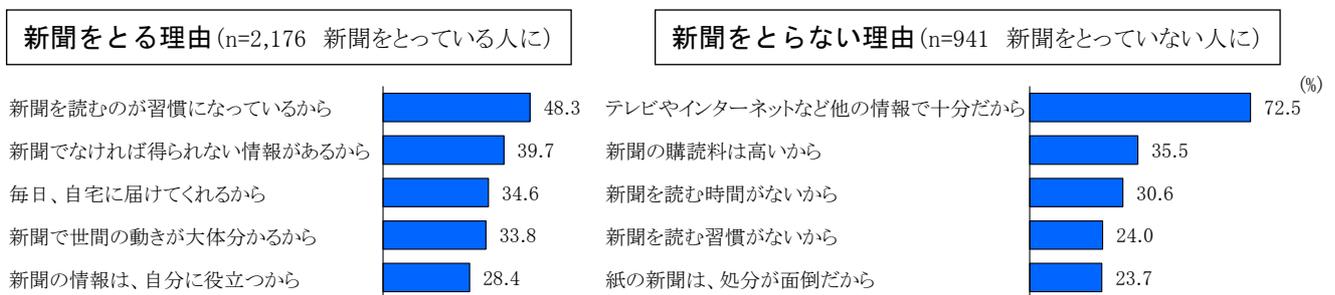
## 新聞の購読率は低下傾向が続く

- ・新聞の購読率は2008年度の88.6%から今回調査の69.4%へ低下傾向が続いている。全国紙が2008年度の55.1%から今回調査の35.7%へ19.4ポイントの低下であった。県紙・地方紙は2008年度27.6%から今回調査25.8%とわずかながら低下しているが、この11年間ほぼ横ばいであった。ブロック3紙は2008年度13.0%から今回調査9.2%へ3.8ポイントの低下であった。
- ・新聞をとる理由としては「新聞を読むのが習慣になっているから」が48.3%でトップ。新聞をとらない理由としては「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」が72.5%でトップ（複数回答）。

図表8 月ぎめでとっている新聞（複数回答、n=3,135 全員に）



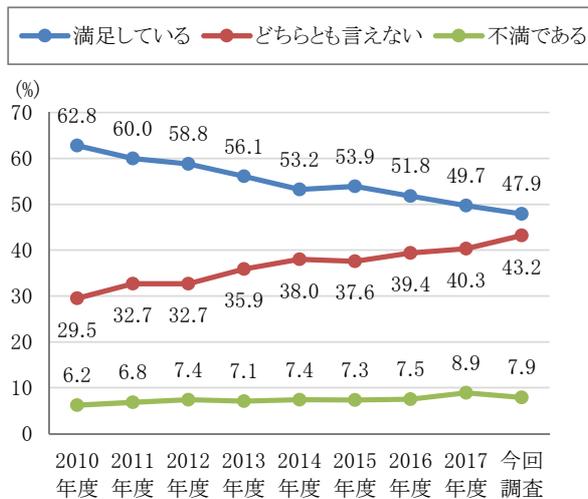
図表9 新聞をとる理由・とらない理由(上位5位) (複数回答)



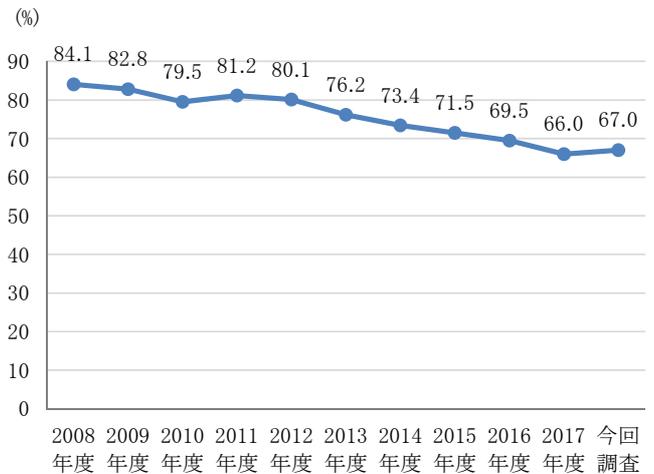
# 新聞全般の満足度、戸別配達の存続希望は低下するも、購読料は妥当と考える人が半数強

- ・新聞全般の満足度について時系列変化を見ると、「満足している」割合が低下、「どちらとも言えない」割合が上昇、「不満である」割合は横ばいとなった。依然、「満足している」割合が「どちらとも言えない」より高かった。「どちらとも言えない」とした人の割合は、新聞を読む頻度が低いほど高くなっており、新聞との接触が少ないことが、満足か否かを評価できない理由ではないかと考えられる。
- ・戸別配達 of 存続希望について時系列変化を見ると、2008年度の84.1%から今回調査の67.0%へ低下傾向が続いた。
- ・新聞の購読料評価について時系列変化を見ると、「妥当」と考える人の割合が2015年度以降、「高い」と考える人の割合を上回り、今回調査まで5割を超える結果となった。
- ・今後の新聞の接し方については、「紙の新聞を購読する」と答えた人が最も多く58.5%であった。一方、「図書館やインターネットなど無料で読める分で十分なので、新聞は購読しない」は20.4%、「無料でも新聞は読まない」は8.8%であった。

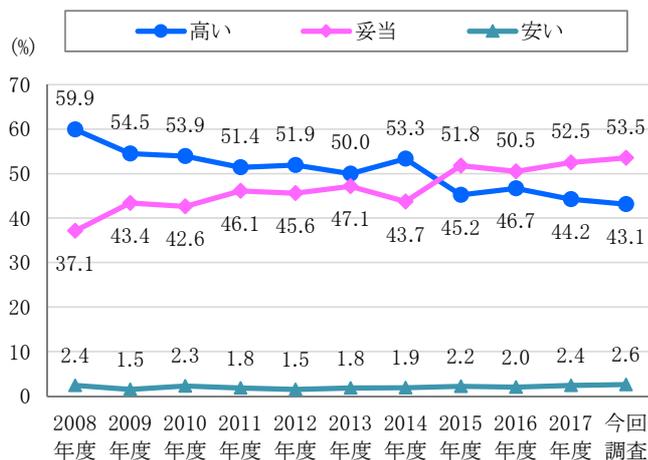
図表 10 新聞全般の満足度 (n=3,135 全員に)



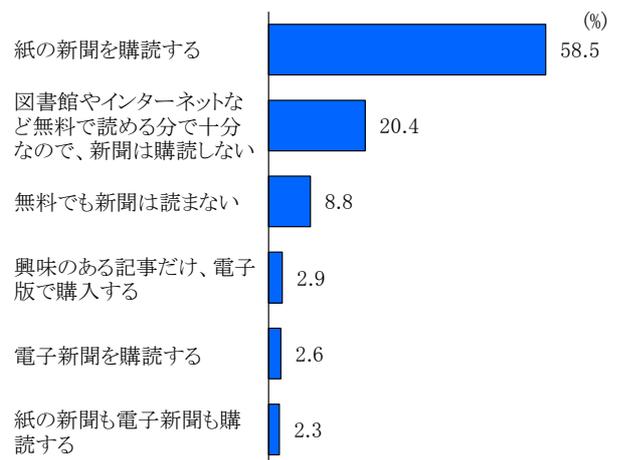
図表 11 戸別配達 of 存続希望 (「続けてほしい」人の割合) (n=3,135 全員に)



図表 12 新聞の購読料評価 (n=3,135 全員に)



図表 13 今後の新聞との接し方 (n=3,135 全員に)



## 時事問題で読んだり見たりしたいのは民放テレビ

- 政治・経済・社会に関する15の時事問題について、どのメディアで読んだり、見たりしたいかを質問した。「日本の財政、税制」「選挙制度改革」はNHKテレビが1位に、他の項目は全て民放テレビが1位になった。
- 新聞は「年金・医療・介護」「雇用環境、ブラック企業」で2位になった。

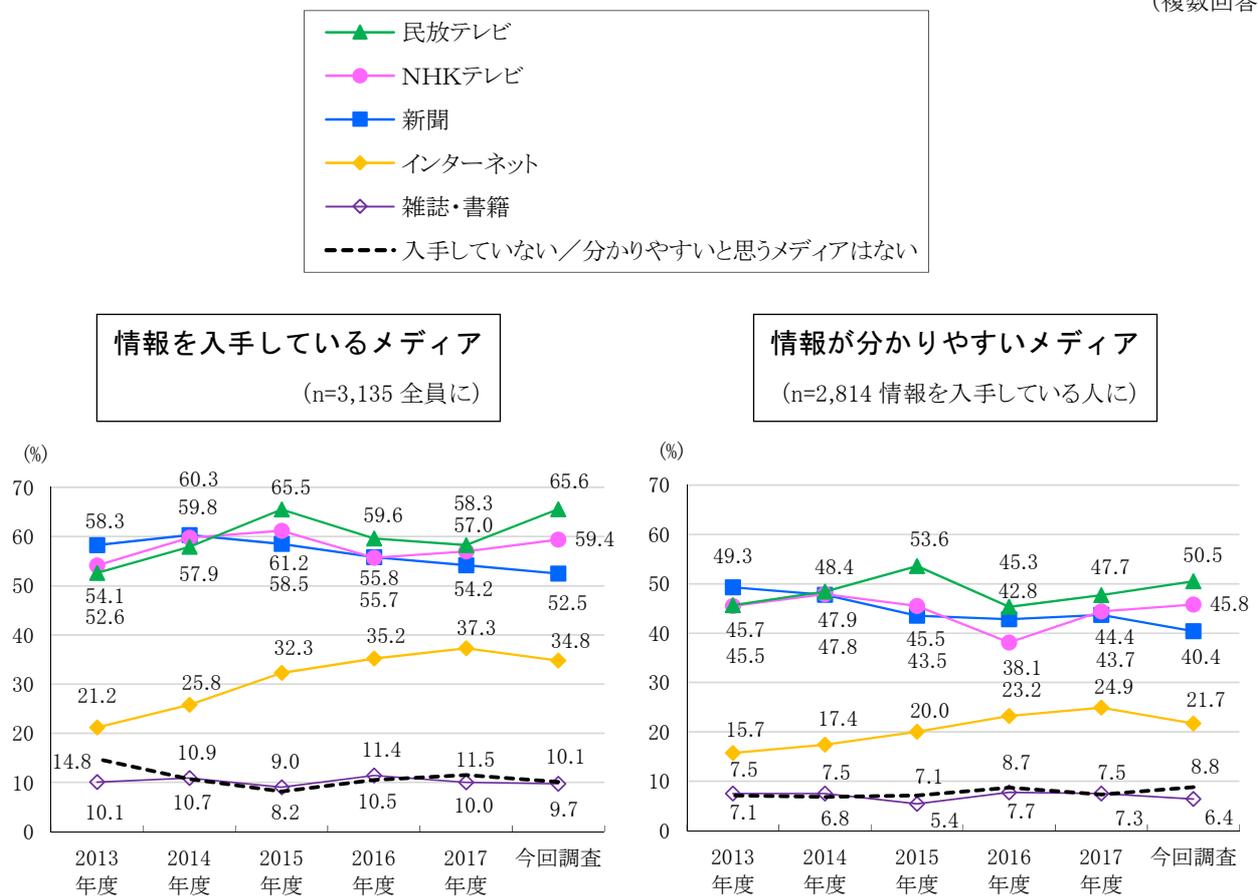
図表14 時事問題で読んだり見たりしたいメディア(複数回答、n=3,135 全員に)

	1位	2位	3位	4位	読まない・見ない
年金・医療・介護	民放テレビ 54.2	新聞 52.6	NHKテレビ 51.2	インターネット 36.2	4.4
子どもの虐待	民放テレビ 63.6	NHKテレビ 46.8	新聞 42.6	インターネット 33.5	5.6
貧困、生活保護	民放テレビ 53.4	NHKテレビ 46.3	新聞 43.2	インターネット 29.1	8.2
待機児童、保育の問題	民放テレビ 56.0	NHKテレビ 45.5	新聞 42.4	インターネット 28.6	9.7
女性の社会進出	民放テレビ 52.6	NHKテレビ 42.1	新聞 40.7	インターネット 28.7	11.2
雇用環境、ブラック企業	民放テレビ 53.1	新聞 42.2	NHKテレビ 40.5	インターネット 38.0	8.1
景気・物価	民放テレビ 53.2	NHKテレビ 50.7	新聞 49.8	インターネット 32.5	6.0
日本の財政、税制	NHKテレビ 51.1	民放テレビ 50.4	新聞 49.7	インターネット 28.1	7.5
原発、エネルギー問題	民放テレビ 54.0	NHKテレビ 51.1	新聞 47.2	インターネット 29.2	7.9
災害や防災	民放テレビ 65.0	NHKテレビ 61.0	新聞 50.7	インターネット 41.2	2.7
選挙制度改革	NHKテレビ 50.3	民放テレビ 50.2	新聞 46.6	インターネット 25.1	11.3
外国人労働者	民放テレビ 45.2	NHKテレビ 40.6	新聞 38.6	インターネット 24.3	18.8
日米関係、基地問題	民放テレビ 54.1	NHKテレビ 52.6	新聞 46.4	インターネット 28.4	9.8
北朝鮮問題	民放テレビ 59.1	NHKテレビ 54.7	新聞 47.7	インターネット 30.5	7.3
日本の防衛対策、自衛隊	民放テレビ 54.3	NHKテレビ 53.7	新聞 47.9	インターネット 29.7	8.8

## 憲法改正報道、情報入手、分かりやすい、ともに 民放テレビ、NHK テレビ、新聞、インターネットの順

- ・ 憲法改正問題に関する情報をどのメディアから入手しているか質問したところ、「民放テレビ」を挙げた人が 65.6%と最も多く、以下、「NHK テレビ」が 59.4%、「新聞」が 52.5%、「インターネット」が 34.8%という結果になった（複数回答）。前回調査と比べると、民放テレビが 7.3 ポイント、NHK テレビが 2.4 ポイント上昇した。一方、新聞が 1.7 ポイント、インターネットが 2.5 ポイント低下した。
- ・ 憲法改正問題に関する情報で分かりやすいと思うメディアを挙げてもらったところ、「民放テレビ」が 50.5%、「NHK テレビ」が 45.8%、「新聞」が 40.4%、「インターネット」が 21.7%という結果になった（複数回答）。前回調査と比べると、民放テレビが 2.8 ポイント、NHK テレビが 1.4 ポイント上昇した。一方、新聞が 3.3 ポイント、インターネットが 3.2 ポイント低下した。

図表 15 憲法改正問題について：情報入手しているメディアと情報が分かりやすいメディア（時系列）  
(複数回答)

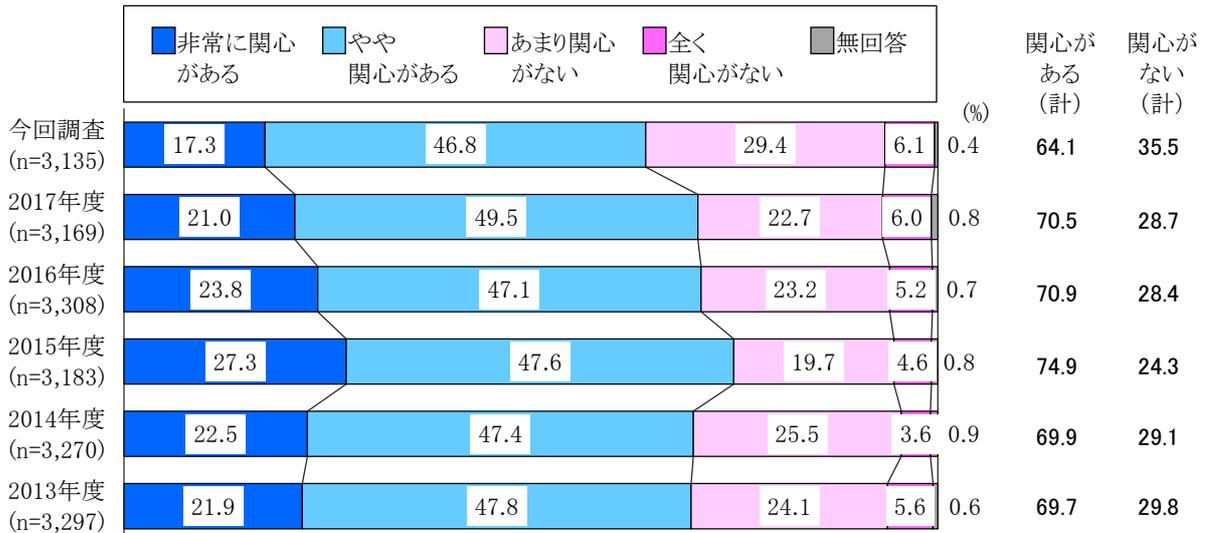


# 国民の憲法改正への関心は少し低下、 憲法改正、新聞は政党間の違い、現行憲法の解説を

- ・ 憲法改正問題に、「関心がある」と答えた人が 64.1%（「非常に関心がある」17.3%と「やや関心がある」46.8%の計）、「関心がない」と答えた人が 35.5%（「全く関心がない」6.1%と「あまり関心がない」29.4%の計）となった。
- ・ この質問を始めた 2013 年度以降、関心は最も低くなった。

図表 16 憲法改正問題への関心（時系列）

(n=3,135 全員に)



- ・ 国会で憲法改正問題が議論されていく中で新聞に期待する報道を尋ねたところ、「政党の意見の違いがよく分かるような報道をしてほしい」が 49.5%で最も多く、次いで、「現行の憲法について詳しく解説してほしい」（47.4%）となった（複数回答）。
- ・ 「憲法改正への賛否については、新聞社の立場を明確にしてほしい」が昨年度から 2.1 ポイント増加したが、上位 4 項目はいずれも割合が減少した。図表 16 で示したように、関心の低下と相関がある。

図表 17 新聞に期待する憲法改正問題に関する報道

(複数回答、n=3,135 全員に)

